

泌 尿 器 科 紀 要

第 12 巻 第 8 号

昭和 41 年 8 月

随 想

チェコスロヴァキヤ国ブルノ市で
開催の国際泌尿器科学会に出席して

岐阜大学教授 後 藤 薫

今回、はからずもチェコスロヴァキヤ国ブルノ市で開催の国際泌尿器科学会Congress Urologicus Cechoslovacus cum Participatione Internationali (1965年5月12日—15日)に招請をうけて出席する機会を得たので、その印象を述べたいと思います。

5月2日夜、羽田を出発して、途中コペンハーゲンにて Prof. Christoffersen (この方もチェッコの学会に出席)を訪問し、以後ベルリン、ハイデルベルグ、プラハを経由して5月11日夕刻チェコスロヴァキヤ航空でブルノ空港に到着しました。学会より出迎いの車で宿舎の Hotel International に到着き、学会登録を終えて早速同ホテルで開催の Welcome Party に出席しました。はるばる東洋の日本から、たった一人で出席したとの理由でしょうか、Prof. Dr. K. Uhlíř (President of the Congress) 夫妻以下多くの人々が温かく接してくれましたのに感激しました。同席で2年前ロンドンでの国際泌尿器科学会で出会ったチェッコの若い Dr. M. Duchék と再会を喜び、以後その Dr. が同地滞在中何かと気を使ってくれて心強く思いました。学会は翌12日午前8時30分より Brno Fair Ground の Administration Building で開催されました。Opening Ceremony of the Congress は Prof. Dr. K. Uhlíř (President of the Congress), Doc. Dr. V. Zvara (President of the Urological Section of the Czechoslovak Society J. E. Purkyně), K. Neubert (President of the Council of the Regional National Committee of Southern Moravia) の挨拶、ひきつづき各国代表の挨拶がありました。学会参加者は別表のごとく、チェコスロヴァキヤ国際泌尿器科学会員128名、諸外国より115名、計243名で、同伴者が多く相当広い会議室も満員の盛況でした。

開会式後、約10分の休憩が宣せられて学術講演がはじまりました。講演はチェッコ語、スラブ語、英語、仏語、独語の5カ国語と指定され、同時通訳となっておりました。演題は二つのシンポジウムに限定され、即ち Urolithiasis 30題、Plastic Operations of Urinary Tract 40題からなり、夫々の主題に対する Discussion の時間が設けられておりました。Discussion への参加は、あらかじめ配布された用紙に名前を記入して Scientific Secretary に申込むようになっており、その時間は2分間と限定されておりました。シンポジウム Urolithiasis からはじめられ、まづ Prof. K. Uhlíř (President) が主として成因に関する綜説的な意見を述べ、以後各演者の発表があり、私は第1日目(5月12日)午前の部の最後に Ultrasonic Diagnosis of Urolithiasis を発表しました。私の講演内容は好評を博しフランス、東ドイツ、ハンガリ、エジプト等の学者に大変な興味をひきおこし、更に詳細な説明を求められ、はるばるやって来た甲斐があったと安堵した次第です。実のところ、英語にての学会発表は初めての経験であった私は、装置の使用法、実験方法・結果等を出来るだけ英文のスライドにして説明した訳ですが、内容が非常によく理解できて、good idea だとほめてくれた人もおりました。午前の講演は12時前に終り、午後は2時より開始されることになっておりましたが、私は学会にて設営の Bus Tour “Brno sight-seeing” に参加しました。

13日午前も Bus Tour “Moravian Karst” に参加しましたが、この時は東ドイツの Prof. Heise 夫妻, Prof. Sinner 夫妻, Dr. Wilhelm の極めて少人数で、車中で彼等と親しく語り会えたことは何よりの楽しみとなりました。彼等は第二次大戦後より日本との交流が途絶しているのを残念がり、日本との交流を切望しておりました。Prof. Heise (Magdeburg) の大学は半世紀前に日本へ来朝したベルツ博士出身校であり、かつては日本から多数留学していたと申し、現在も泌尿器科としてベット数90床を有し、年間の患者数5,000名との由でした。午後は Congress に参加しましたが、シンポジウム Plastic Operation of Urinary Tract が行なわれており、チェコスロヴァキヤの女性の Prof. の講演もありました (Reconstructive Surgery of the Urinary Tract in Childhood)。同日夜はブルノ市内の Spielberg Castle での Social evening with festive supper に出席し、この時も午前中の Bus Tour で一緒になった Prof. Heise 一行の席によばれて、深更一時すぎまでビルゼンビール、チェコワインをかたむけて、楽しく語り合うことができました。

14日午前も Bus Tour “Neo-Gothic Castle of Lednice” に参加し、午後早々にブルノ空港を飛び立ち、プラハの美しい街に一泊して帰国の途につきました。

Congress に参加の時よりも、Bus Tour に参加した時間の方が多かったきらいもありますが、多くの場所で多くの知己を得たことは何よりの収穫だったと思っています。ブルノ滞在中、何かと気をつかってくれた多くのチェコの Dr. たち、なかにはチェコ—英辞典まで present してくれた人もおります。私の講演が終るなり、握手を求めて色々 discussion したフランス、エジプト、ハンガリ等の Dr. たち、Bus Tour で親しくなった東ドイツの Dr. たち、ホテルでの食事毎に一緒になった気さくなオランダの Dr. 夫妻、愛犬ブルドックまでつれて来ていたフランスの Dr. 夫妻等、今思い出してもなつかしい人達ばかりです。彼等とまた会える日を楽しみにして筆を擱きます。

今回の出張に際し、御支援下さいました恩師稲田 務教授、日本泌尿器科学会理事長高安久雄教授、並びに私共の医局員諸君、関係各方面に感謝します。

追記 チェコスロヴァキヤの国内事情

短期間の滞在では、くわしい事はわかりませんが、共産圏に属し他の西欧諸国と異なった点があります。まず、ビザに写真二葉が入用で、これは出入国に一葉づつとりあげ、プラハの空港でパスポートを3回提示する関門があり、そのたびに厳重に写真と照合です。ホテルのフロントでもパスポートは一晩とりあげです。しかし、滞在中は何等の制限もなく、写真撮影も可能です。ホテルは国営ですが、西欧諸国と同様にチップも要求されました。工業国として栄え、女性の服装も美しく、ホテルでファッションショウも開かれておりました。通貨の取扱は厳重で、バンクで交換の度毎にビザに記入します。1米ドル=16.11 クラウンのレートで交換をうけましたので、1クラウンは約23円かと思います。厳重にみえてもヤミはあるようで、帰途プラハのホテルで、食堂のボーイに10米ドル=250クラウンのレートで交換してやろうと小声で云われましたが、私はその必要なくことわりましたが一寸意外の感じが致しました。しかし、旅をして楽しい、美しい国でした。

学 会 参 加 国 名

参 加 国 名	出席者数	参 加 国 名	出席者数
フ	5	オ	1
ラ	3	デ	1
ソ	2	ン	13
ニ	7	マ	2
リ	17	ス	4
ア	5	ト	1
ト	8	リ	1
リ	3	デ	1
ツ	1	エ	1
ツ	9	ス	3
ア	11	ビ	1
ア	3	イ	1
ド	3	ユ	1
ニ	1	ン	3
マ	9	タ	1
パ	11	リ	1
ニ	3	本	1
ス	3	ヤ	1
ラ	3	本	1
ン	3	国	1
ギ	3	名	1
		計	243